

特別支援教育関係資料

特別支援教育の対象の概念図(義務教育段階)

(平成27年5月1日現在)

義務教育段階の全児童生徒数 1009万人

減少傾向

特別支援学校

視覚障害 知的障害 病弱・身体虚弱
聴覚障害 肢体不自由

H17年比で1.3倍
0.69%
(約7万人)

小学校・中学校

特別支援学級

視覚障害 肢体不自由 自閉症・情緒障害
聴覚障害 病弱・身体虚弱
知的障害 言語障害

H17年比で2.1倍
2.00%
(約20万1千人)

(特別支援学級に在籍する学校教育法施行令第22条の3に該当する者：約1万8千人)

通常の学級

通級による指導

視覚障害 肢体不自由 自閉症
聴覚障害 病弱・身体虚弱 学習障害(LD)
言語障害 情緒障害 注意欠陥多動性障害(ADHD)

H17年比で2.3倍
0.89%
(約9万人)

3.58%

(約36万2千人)

増加傾向

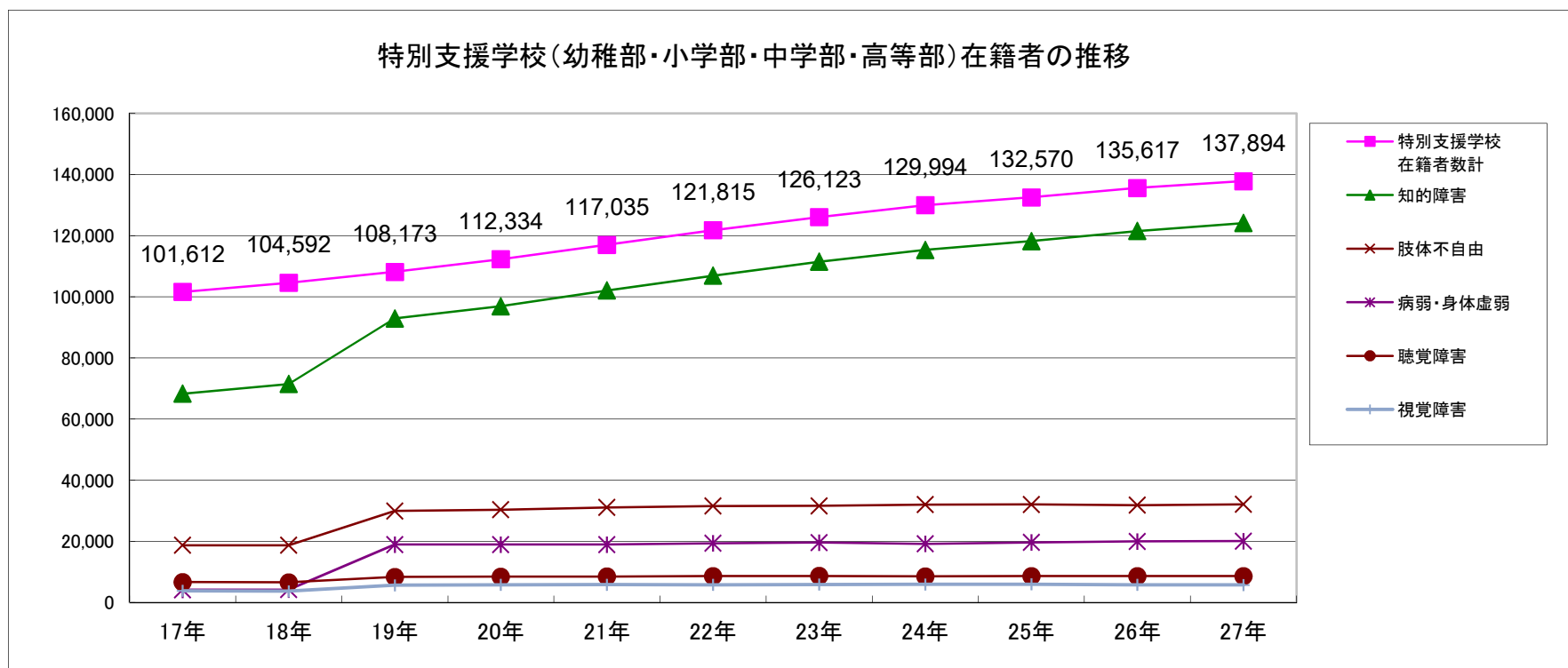
発達障害(LD・ADHD・高機能自閉症等)の可能性のある児童生徒：6.5%程度*の在籍率

*この数値は、平成24年に文部科学省が行った調査において、学級担任を含む複数の教員により判断された回答に基づくものであり、医師の診断によるものではない。

(通常の学級に在籍する学校教育法施行令第22条の3に該当する者：約2,100人(うち通級：約250人))

特別支援学校の現状(平成27年5月1日現在)

※平成18年度までの表記は盲学校、聾学校及び養護学校とする。以下同じ。



	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	計
学 校 数	83	118	745	345	145	1,114
在籍者数	5,716	8,625	124,146	32,089	20,050	137,894

※注：在籍者数は、平成18年度までは在籍する学校の障害種別により集計していたため、複数の障害を有する者については、在籍する学校の障害種以外の障害について集計していない。平成19年度より、複数の障害種に対応できる特別支援学校制度へ転換したため、複数の障害を有する者については、障害種のそれぞれに集計している。このため、障害種別の在籍者数の数値の合計は計と一致しない。

※注：学校数は、平成19年度より、複数の障害種に対応できる特別支援学校制度へ転換したため、複数の障害に対応する学校については、それぞれの障害種に集計している。このため、障害種別の学校数の数値の合計は計と一致しない。

障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習について

障害者基本法において、障害者である児童及び生徒との交流及び共同学習を積極的に進めることによって、その相互理解を促進しなければならない旨規定。

○障害者基本法（昭和45年法律第84号）

第十六条（略）

3 国及び地方公共団体は、障害者である児童及び生徒と障害者でない児童及び生徒との交流及び共同学習を積極的に進めることによつて、その相互理解を促進しなければならない。

学習指導要領の総則等において、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や、高齢者・障害のある人との触れ合い、体験活動の充実等について規定。

○小学校学習指導要領 総則：指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

「…特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること。」（※中学校、高等学校にも同様の規定あり。）

○特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 総則：指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

「小学校又は中学校等の要請により、障害のある児童、生徒又は当該児童若しくは生徒の教育を担当する教師等に対して必要な助言又は援助を行ったり、…他の特別支援学校や地域の小学校又は中学校等との連携を図ること。」

○小学校学習指導要領 生活：指導計画の作成と内容の取扱いにおける配慮すべき事項

「具体的な活動や体験を行うに当たっては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにすること。」

○学習指導要領 特別活動：指導計画の作成と内容の取扱いにおける配慮すべき事項

学校行事の実施にあたり、「幼児、高齢者、障害のある人々などとの触れ合い」等の「体験活動を充実する」
（※ 中学校、高等学校にも同様の規定あり。）

＜交流及び共同学習ガイド（小・中学校等において交流及び共同学習が積極的に取り組まれるよう、実際に推進していく際のおよその手順を説明した「交流及び共同学習ガイド」を作成し、文部科学省HPに掲載）＞



音楽の授業での交流



友達の似顔絵を描いてプレゼント



交流を重ねることで互いを認め合う

学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業

平成28年度予算額:81百万円(前年度予算額147百万円)

障害者権利条約の批准や改正障害者基本法の趣旨等から共生社会の実現のために障害者理解の推進が求められている所である。また、共生社会実現のためには、交流及び共同学習について推進を図ることとされている。この度、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定し、これを契機として、**障害のある子供と障害のない子供が一緒に**障害者スポーツを行う、一緒に障害者アスリート等の体験談を聞くなどの**障害者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施**する。

障害のある子供とない子供が障害者スポーツの楽しさを共に味わい、障害者理解の推進や交流及び共同学習のより一層の充実を図る。

■障害者スポーツ体験学習

共に障害者スポーツを体験することで、相互理解を深め、人間の多様性の尊重や豊かな社会性の育成につなげる。
また、障害のある子供が障害者スポーツに取り組むことにより、障害者スポーツをより身近なものとして感じ、今後の交流につなげる。



車椅子卓球



ボッチャ



チェアスキー



ブラインドサッカー

■障害者アスリート等との交流

障害者アスリートや義肢装具士などの用具作成に携わる専門家を学校等に招き、アスリートと交流する機会を設ける他、用具等に施された様々や技術・工夫を学び障害者を支える仕事に触れることを通じ障害に対する理解を深める他、社会参加の在り方を考察する。

※モデル地域の設定(以下のいずれかを主たる研究事項とする)

- ①特別支援学校と幼・小・中・高等学校等との交流及び共同学習
- ②特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習

※「交流及び共同学習」の機会については、体育を含めた各教科や「総合的な学習の時間」等での取組が考えられる。



車椅子カーリング



地域の取組を総合的に支援

(都道府県・市町村教育委員会等)

委託

文部科学省

●委託先件数
25箇所

子供たちの社会性や豊かな人間性を育み、多様性を尊重する共生社会の実現を目指す

学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進に関する事業 実践事例(鳥取県の取組)

特別支援学校と中学校との交流及び共同学習 (障害者スポーツ体験、障害者アスリートとの交流)

■鳥取県教育委員会の取組

- ・視覚障害者のパラリンピック種目である「ゴールボール」をととしての学校間交流
- ・障害者アスリートは、ゴールボール日本代表工藤力也選手を招き、講演と実技を通じた交流
- ・対象：鳥取県立鳥取盲学校（中学部）と私立青翔開智中学校（一年生）

【交流の様子】



【取組の成果】

○鳥取盲学校

- ・ゴールボールは交流校の生徒と互角に活動できるスポーツなので、自己肯定感の向上につながった。
- ・交流を通して集団の中でも自分からわかる表現する力が育ちつつある。

○青翔開智中学校

- ・視覚障害者のスポーツ、生活の様子に関する理解が深まり、普段の生活でも意識する様子が見られた
- ・鳥取盲学校の生徒の感覚の鋭さに感心するとともに、生徒が自分たちと同じように成長し、向上していく存在であると感じることができた。

（生徒の感想）

○鳥取盲学校

- ・青翔開智の生徒と活動するのは緊張したけど、楽しかった。

○青翔開智中学校

- ・最初は目に見えない人と意思の疎通は難しいと思っていた。ゴールボールを通して目が見えない人の気持ちが少しわかった。

（教員の振り返りより）

○鳥取盲学校

- ・全く知らない人と関わる経験ができたことによって、その後の現場実習での人との関わりの中では、緊張しながらも職員や利用者と会話することができた。

学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の 推進に関する事業 実践事例(宮崎県の取組)

特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習 (障害者スポーツ体験、障害者アスリートとの交流)

【宮崎南高校新聞部発行新聞 (図南飛翔)】

第12号

図南飛翔

平成27年12月4日(金)

障がいを越えてスポーツ交流

図南飛翔



指導される柳田さんと、競技を楽しむ支援学校と南高の生徒

**ボッチャのことを
知ってもらいたい**

◇積極的な交流を！

太田恵蔵さん
大分県ボッチャ協会の会長を務め、現在、ボッチャ協会副会長兼理事としてボッチャ競技の普及や啓発に努め

11月24日(火) 清武せいりゅう支援学校で「スポーツを通じたバリアフリー推進事業」として「ボッチャ」を通しての体験交流が行われた。「ボッチャ」とは障がい者スポーツ競技の一つである。清武せいりゅう支援学校4名、赤江まつばら支援学校7名、みなみのかぜ支援学校25名、宮崎学園高校13名そして本校から37名、計5校86名が参加した。
今号は、講師として参加された太田恵蔵さんと柳田哲志さん、そして交流会に参加した生徒に話を聞いた。また、本校新聞部員の「ボッチャ体験記」を載せた。

ボッチャを体験し、広める

ている。自身も競技者として過去に日本ボッチャ選手権大会での優勝経験もある。太田さんに話を聞いた。

Qボッチャの魅力は？

A障がいの程度に応じ、3対3で行うレクレーション型と1対1で行う競技型の2つのタイプに分かれ

て競技ができることです。また、自分の思い通りにプレーでき、作戦を立てて何度も練り直すことができると思います。

Q今回の交流会を通して高校生に伝えたいことは？

A積極的に障がい者のイベントにサポーターやボランティアとして参加してほしいです。そして「ボッチャ」のような障がい者スポーツを通して心の交流もしてもらいたいのです。

◇ボッチャを広めたい

柳田哲志さん

1991年にテレビ宮崎に入社し、現在「じゃがじゃがサタデー」のアナウンサーとして活躍。その一方で、宮崎県ボッチャ協会の設立にも尽力し、現在副会長を務め、また自ら宮崎ボッチャクラブを設立し、競技の普及に努めている。柳田さん

発行元
宮崎南高校
新聞部
発行日
12月4日
(金)



に話を聞いた。

Q ボッチャの魅力は？

A 誰でもできるということだと思っています。また、戦術も無限にあるので、どのような球を近づけるか考えるのも面白いと思います。

Q ボッチャをこれからどのように普及していきたいか？

A まず興味を持ってもらって、実際にやってみたらいいかなと思います。

これは思ったより奥が深い！ ～児嶋祥平のボッチャ体験記～



私は実際にボッチャを体験してみました。最初の試合は南高の私を含む3人と支援学校の生徒3人のチーム戦で

す。1チーム6人で、1人2球ずつを投げます。まずボールを待つとずっしりとした重さが手に伝わり、見た目よりも意外と重いのには驚きました。1球目は白いボールのそばを狙って投げてみるのですが、重

さもあって予想以上に力が入り、かすりもせず奥に飛ん行ってしまいます。2球目は敵チームのボールを弾き飛ばそうとしましたが、味方チームのボールを吹き飛ばしてしまいました。自分のプレーは散々でしたが、体験してみても驚いたのは、一見単純そうなルールに思えて、実は作戦や味方との協調性などが求められ、とても奥深く、同時に誰でも楽しめるように作られていることでした。ゲームなので勝ち負けが付きましたが、終了後、自分を含め、誰もが笑顔でした。障がいのある無を問わず、皆で楽しめる競技で、広く一般に普及して欲しいと思いました。

と思います。また、自分が県の代表選手になり、先頭に立って活動していくことが一番だと思います。

Q 今回の交流会を通して高校生に伝えたいことは？

A 障がい者のことをしっかりと理解し、支えてほしいです。日常生活だけでなく、こういったスポーツを通して交流をしてほしいです。

また、参加した生徒2人に話を聞いた。

◇夢を叶えるために
3K伊東直人さん



私は、親戚に身体障がい者がいます。将来はそのような方々に携

わることで、支援学校の先生になりました。今、今回参加しました。

ボッチャの体験は今回が初めてでした。初めはシンプルで楽しめそうだったけど、体験してみると意外と頭を使い、難しかったです。支援学校の生徒も楽しんでやっていたので良かったです。

誰にでも分かる ボッチャのルール



「ボッチャ (Boccia)」とは、障がい者、とりわけ脳性麻痺などにより、運動能力に障がいがある競

技者向けに考案された障がい者スポーツ。パラリンピックの公式種目となっており、全世界で40カ国以上に普及。ボッチャとはイタリア語でボールの意味。(ウィキペディアより)

◇楽しく遊べた
1J梶谷結衣さん



攻が赤ボールを的に近づけるように投げる。その次に、後攻が青ボールを投げる。そして、次の人がまた投げる。それを4セット行ない、的に近いボールを数え、その数で、勝敗を決める。少しカーリングに似ていると思ってもう少し良い。ルールの分かりやすさと、作戦次第でそれまでの結果がひっくりかえる面白さとを合わせ持つスポーツである。

私は得業介護職に就きたいと思っているので、今回参加しました。支援学校の生徒と交流をして、はじめは少し緊張しましたが、ゲームなどを通して楽しい時間を過ごすことができました。(佐藤・高橋・湯浅)

編集後記

今回の取材で、初めてボッチャを知りました。障がいのある人、ない人に関わらず、どなたでも楽しめる場所が魅力だと思いました。時間が経つにつれ、本校の生徒と支援学校の生徒との距離が近くなっているのを感じました。

この新聞を通して、一人でも多くの人にボッチャを知って欲しいと思います。(高橋)

【制作】

宮崎南高校新聞部

2年 児嶋 佐藤

湯浅 高橋

松本